

令和 6 年度 第 1 回「十和田湖 1000 年会議」 議事概要

開催日時 令和 6 年 10 月 8 日（火）14：30～16：00

開催場所 十和田ビジターセンター レクチャールーム・WEB 併用

1. 開会

2. 議事

（1）十和田湖 1000 年会議設置要綱の改定について（報告）

（・資料 1 に基づき事務局・環境省十和田八幡平国立公園管理事務所・松尾所長より説明）

（・質疑はなし）

（2）今年度の取り組み・各ワーキングでの議論の経過について（報告）

（・資料 2 に基づき事務局・環境省十和田八幡平国立公園管理事務所・松尾所長、
大日本ダイヤコンサルタント・無量井より説明）

（・質疑は、議事（3）でまとめて実施）

（3）休屋・休平地区マスタープラン（骨子）について（協議）

（・資料 3-1, 3-2 に基づき事務局・環境省十和田八幡平国立公園管理事務所・松尾所長より説明）

発言者	発言内容
議長（環境省 東北地方環境 事務所 中島所長）	・参加者の皆様から、順番にご意見をいただければと思う。
十和田市 小山田市長	・今考えてみると、小学生の頃から何度もこの十和田湖に来たものである。来たら必ず、占い場等には足を運んだ。景色よりも、他の地域に無いようなものにむしろ興味を持った。 ・今回の「魅力向上の拠点」づくりで、少し表現としても出てきているが、もう少し、「ここでしかできない」「ここならではの」体験だとか、そういうものをもっと前面に出してはいかがかと思った。利用拠点の方向性については賛成している。そういったことを進めていただければ、第三者の方に入ってきていただければと思う。
小坂町 細越町長	・マスタープランについては、特段意見はない。 ・明後日、十和田の道の駅がオープンすることになり、イベント等が開催される。秋田県側の玄関口となることを、皆様とともに祝うことができればと思う。それにより、秋田県側が今まで以上に活性化すれば、休屋もますます発展していくと思う。

青森県観光政策課 工藤課長	・土地利用のアイデアをイメージできるものとして拝見した。骨子の1章に、ターゲットの話があった。団体旅行から個人旅行に進んできているとはいえ、現状まだまだ大型バスで来ている団体の方がいらっしゃる。団体旅行と個人旅行で求められる満足度が違い、両立するのは難しいところがあるが、どちらも満足できるモノになれば良いと思う。 ・3章で、ソフト対策など描かれているが、滞在型ということで、1泊より2泊、2泊より3泊・1週間と、なるべく多く滞在して頂くということに越したことはないということであれば、少し長い時間をかけて楽しめる、ということが位置づけられれば良いと思う。
青森県道路課 能登谷総括主幹	・奥入瀬溪流の国道沿いのところで、将来的な交通規制に向けた、自然環境保護・利活用の検討と取組を担っている。 ・過年度に、将来の目指す姿を示す「奥入瀬ビジョン」をつくったが、奥入瀬溪流のみならず、十和田湖周辺との連携も行っていく位置づけがあるので、協働しながら、こちらの検討も進めていければと思う。
秋田県生活環境部 千葉課長	・マスタープランについて特段意見はない。 ・お客様も見られる中で、ニジマスの掃除をしている風景を見ると、十和田湖の豊かさを改めて感じたところ。 ・桂が浜の公衆トイレなど、既存の自然公園施設について維持管理を図っている。県全体としても、県内の施設整備について要望が進まないところがあるので、ぜひとも十和田湖での取り組みでも予算が取れればと思う。
秋田県鹿角地域振興局 兎澤局長	・十和田湖の景観はただでさえ大きな価値を持っていると思うが、更に付加価値を高めるにはどうすべきか。30年ぐらい前までは社内旅行などで多くの人に来ていたが、この自然景観でも観光客を呼べなくなっている。 ・マスタープランに基づいてまちづくりを進めていくには、瀬戸内国際芸術祭のように、人が集まらない所に芸術作品を持ってくる等、ソフト的な仕掛けづくりが重要。行政と地域が一体となって、十和田湖の新しい魅せ方づくりを行う必要がある。行政の予算を確保することは大変だと思うが、何か仕掛けづくりが大事だと思う。 ・ホテルを誘致する場所、歩行者空間をつくる等のほかに、まだ広大な土地がある。例えばアウトレットモールのような場所が誘致できれば、十和田湖の景観を見てもらいながら楽しめる、といった場所になると思う。我々がこの計画に基づいて具体的に取り組んでいくという強い意志を示さないと、事業者も動かないと思う。1000年会議のメンバーを中心に、皆の意見を一致させて、それぞれが持つ力を結集させるべきだと思う。
自然公園財団 十和田支部 佐々木所長	・非常にいい骨子案だと思う。 ・昨今は個人客や外国人客が多い状況。よって、個人客がたくさん来られるための交通網を形成する等が重要かと思う。そうすることで、この地域に来ていただけるようになると思う。

	・秋田県と青森県がタイアップして、この地域にたくさんの人が足を運んでくれるような、自然環境が堪能できるような場所になればと思う。この計画を実現させ、すばらしい場所として発信していければと思う。
十和田湖国立公園協会 生出常務理事	・地元としてとても素晴らしい計画だと思っている。 ・廃屋跡地への事業誘致について、大学のキャンパスが誘致できれば総合的に活力が出てくるのではないかと前々から思っているので、ご検討いただければと思う。色々考えはあると思うが、この十和田湖のすばらしさを皆さんに知ってもらって、拡散していく。
十和田奥入瀬観光機構 岩間理事長	・説明いただいた内容は素晴らしいと思うし、これからも推進していただければと思う。 ・また、小中学生等の「十和田湖に対する地元愛」を育むような取り組みをやっていただいて、十和田湖はどれだけ魅力があるのか、というところを進めていただければ。私どもは小さい頃から十和田湖のことについてよく知っている。例えば伝説があるとか、十和田神社の占い場等、色んな話を聞いている。十和田湖がこんなところだ、ということを伝えていければ、全国どこに行っても口コミで宣伝出来るのではないかなと思うので、そういう取り組みを進めていただきたい。
秋田犬ツーリズム 虻川専務理事	・マスタープランの考え方についてだが、誰が見るためのものなのか。地域の住民の方に見ていただくものであれば、わかりづらい部分もあるかなと思う。 (→事務局回答：本日お集まりの 1000 年会議構成員が、それぞれの立場で取り組むべきことを位置づけるものだと考えている。地域住民に見てもらうことを 1 番に考えているわけではない。) ・序章部分だが、「事業の中身の目的」を明確化すべきだと思った。「先端モデル事業の一環でマスタープランを策定する」と書かれているが、それを行う目的は何かが根本になると思うので記載すべきかなと思う。 ・また、ハードとソフトの両面の基本計画として策定すると表現されていたが、何をするのか、具体的な表現が必要かなと思った。
十和田商工会議所青年部 佐々木会長	・十和田湖を中心とした地域、秋田県・青森県が日本全体で誇れる地域になると良いなと思っている。 ・マスタープランは大事だと感じている。誘致する宿泊施設の考え方はマスタープランで明確化したうえで、周辺のまちづくりとあわせて進めていくことが必要かなと思った。 ・民間事業者としては、このエリアでなにができるのか、何が商売としてできるのかが明確になるのが好ましいと思っている。 ・ビジョンをわかりやすく見せるということが大事。可視化されたビジョンにおいても、数々のハードルがあると思う。南側の駐車場からモビリティで移動させる、というのも、旅客からすればなかなかハードルが高い。湖の湖畔の利用の仕方についても、ボートが自由に往来するのが良かったのか、また安全面もハードルを一つずつ丁寧に紐解くのが大事かなと思う。

	・高付加価値化に向けては、暮らす方・観光でいらっしゃる方、皆さんの安全を確保することも大事。福祉・防犯など、幅広く想定しておくべきかと思う。
青森銀行ビジネスパートナー部 夏堀部長代理	・基本的な内容については賛成。 ・宿泊施設の方向性について。国立公園の中にある約 1400 の宿泊事業者のうち、75%が 5,000 円～1 万 5000 円の宿泊施設、5 万円以上の宿泊施設は 1.5%しかない。「廃屋」が一つのキーワードになる中、5,000～1 万 5000 円という単価で、物理的に市街地から離れていてランニングコストがかかる事業形態を維持できるのか、というところはしっかり考えた方が良いと思う。一概に高級な宿を求めている訳ではないと言いつつも、ある程度の単価を取らない限りは、なかなか難しいと思う。 ・そもそも単価を高くすることは、それなりの付加価値が求められ、まさに参入見込み事業者との対話が求められるところ。保護と利用を両立させようとする中で、高付加価値な宿を提供するために、どこまで環境省がやるのか、どこを事業者がやるのかといった双方の歩み寄りが重要だと思う。 ・2 点目、「高付加価値」の話が色々あるが、十和田湖って河口湖や洞爺湖と何が違うのか、と聞かれた際に、「十和田湖の自然だ」という言い方もあるが、お金を払う一般の利用者に、その価値を明確に示せるのかどうか。「ここだからこその体験」を謳っていくとはいうものの、ハードルが高いと思う。日本の中にある資源と近い部分はあるが、その中で「こんな体験ができる」ということをきちんと示すことが有効だと思う。
大川岱自治会 大森会長	・修学旅行のお客様を大事にして、継続的に集客していけるような体制を作すべき。ホテルだけではなく、遊覧船やお土産の購入も期待できるため、そういう意味でも修学旅行を大事にした方が良いと思う。 ・昔は 38 校ぐらいの学校があったが、7～8 割が連泊されていた。連泊になるだけで売り上げが倍になり、観光業にとっては大きな話である。また、色々な学校から下打合せの段階で注文されていたのは、全天候型の施設であった。
休屋町内会 金村会長	・何回も会議の話し合いがあって、つまらないことを申したかもしれないが、上手くまとめてくれていることに感謝している。 ・予定どおりホテルが建つと良いが、現状、廃屋が 30, 40 ある中、廃屋を撤去する計画が書かれており、ホテルを新しく建てるだけでなく、廃屋が撤去されるだけでも変革があるのではないかと感じる。連泊できるいいホテルを誘致していただけることには感謝しているが、廃屋にならないような施設になるといい。
十和田湖畔の未来協議会 下山会長	・幹事会で言いたいことは言ったが、気になっていることについて。にぎわい施設の整備については良いと思うが、既存のなりわいがある一の宮地区とにぎわい施設とがマッチングするように整備を進めていただければと思う。 ・公共のトイレが少なすぎると感じているので検討してもらいたい。北駐車場では新しくトイレをつくってもらったが、来訪客に聞かれて答えたときに「あんな遠くにあるのか」と言われることもある。あれほど大きくなくとも、もう少し点々とある方が良い。地域の意見を拾うことも大事だが、ここに訪れてくれる観光客の意見も聞いて反映してほしい。

十和田湖増殖 漁業協同組合 小林組合長	・ 廃屋が撤去され綺麗になっていき、新しい形の観光に移り変わり、若い方がいらして定住していく、そういう環境づくりが進んでいくものと期待している。 ・ 私共の漁業はこの地元でないと出来ないので、この事業を進めてもらっていけば、ヒメマス漁業もいい方向に続いていくと思う。
青森県自然保 護課 遠藤副参事	・ 県の自然保護行政を担当している身として、マスタープラン骨子の第3章「2. 利用ルールの見直し・明確化」が主に関わってくると思う。利用のルールを重視するため、利用者に対してルールの周知を図って欲しい、という要望が寄せられている。具体的には、特別保護地区での山菜採取やスノーモービルの乗入れ禁止、ペット同伴の登山など。ペットは放し飼いにされていなければ大丈夫だが、自然公園内のルール・マナーについて、チラシ配布、周知などを引き続き進めていきたい。
青森県文化財 保護課 山館課長	・ 文化財保護という立場から、マスタープランの具体的な内容というよりも大きな視点で話したい。十和田湖は特別名勝及び天然記念物ということで、昭和58年3月に保存管理計画を策定。文化財の価値が損なわれることなく適切な利用がなされてきたと認識している。 ・ 十和田市教育委員会で保存活用計画を策定中と聞いた。保存活用計画と、マスタープランに齟齬が生じないようにして、文化財としての価値が未来に引き継がれるような取り組みにしてほしい。
青森県上北地 域県民局 関総括主幹	・ 高付加価値化・上質化で、事業者誘致の取り組みが加速すると思うが、地元の方がみて敷居が高くなってしまわないような、地元の方の憩い・癒しの場となり、地元の方に多く来ていただけるように、取り組みを進めてもらえればと思う。
株式会社風景 屋 小林アドバイ ザー	・ この事業の目的を明確にすることと、高付加価値化ということで「その価値とは何？」ということについて、明確にしてほしい。 ・ マスタープランがハード・ソフト両面の基本計画だと考えたときに、2050年になっ てどうなっているか描きづらい状況の中で、これからの社会に対して手段を拘束するものであってはならない。一般的なマスタープランだと将来イメージを落とし込むことが多いが、落とし込まない方がいいかもしれない。部分部分のシーンが繋がっていった一つの図面になるような、新しい形のマスタープランの描き方があっていいのかと。 ・ 2050年になった段階でも、150年前に生きていた人たちが見ていた同じような価値もあって、社会は変わっていくが変わらない価値を描くというのが大事。今日、占い場の話も出て良いなと思ったが、生活者として、本当に住み心地が良いと思っている。アウトレットやコンビニは他の地域にあるので、否定するわけではないが、ここにしかないものを積み上げていくこと、それがこのマスタープランの中で描かれていることが大事。その「価値」が今はどこにも書かれていない。言語化もビジュアル化もされていないので、いわゆる「なにもない状態」になっている。つまり、皆さんが頭の中に思い描いている状態にとどまっている状況なので、それが言葉になってビジュアル化されると良い。 ・ 資料3-2のp5、「将来的なエリア区分」で、この3区分は良いと思いつつ、

	オレンジの三角形の外側（マスタープラン対象エリア外）がどうなるのかも含めて検討する方が良い。航空写真を見ると、1950年代は土地をうまく使いこなしていて、山際まで土地を上手く利用していた。自給自足に戻るわけではないが、そういった場合、山際まで含めて活用が必要なのかもしれない。環境省的には集団施設地区外になってしまうが、是非一緒にご検討いただければと思う。
Deneb 株式会社 永原アドバイザー	・海外の方に日本の魅力を伝える、「旅をデザインする」仕事をしているが、日本の国立公園を見た際に、外国人が期待するものがある。それは、日本の国立公園は生活圏と自然が併存、つまり文化が存在しているところが特長である。観光と暮らしが両立して存在している旅先は中々無い。旅で大事なものは人との出会い。観光だけがある観光地になってしまうと、スカスカで文化や暮らしがない。 ・これから宿を誘致していくことが、マスタープランの一つの要になっていると理解しているが、観光と暮らし、どちらかがどちらかに完全に依存してはいけないと思う。誘致する宿が地域の人々の暮らしに対してどんな機能を果たすのか。困っているときに宿のスタッフが手を差し伸べてくれるのか、街に出るときに宿の車を使うことができるのか、マルシェを作って普段手に入らないような食材がそこに行けば手に入るのかなど、観光と暮らし双方の具体的な対話ができるような、解像度の高い議論を地域の方と宿を運営していく方が明確な役割分担を持って行うことが重要。それができて初めて、これから入ってくる新しいものが地域に馴染む。その地域の価値観をきちんと体现できるような場所をしっかりと作ることが大事だと思う。
環境省東北地方環境事務所 中島所長	・皆様からは貴重なご意見をいただいた。マスタープランの骨子については大きな異論は無かったと思うが、この骨子を基に今後具体化していくことで問題ないか。
各構成員	(異議なし)

3. 閉会

以上